

2019 年度 事業計画書

自 2019 年 4月 1日
至 2020 年 3月 31 日

公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団

2019年度事業計画書

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1) 手話放送の制作支援

「NNNニュースサンデー」に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜日午前6時15分～6時30分までの全国放送のニュース番組。手話通訳を画面右下にワイプで挿入している。2019年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士が、ローテーションを組んで、年間52回の手話放送に携わり、聴覚障害者の方々への情報サービスの一助となっている。

(2) 点字カレンダーの製作及び無料配布

写真付き点字カレンダーを製作し、関東を中心に全国の施設や個人に、約2万部を無料配布。この他、全国の日本テレビネットワーク各社の協力を得て2万部余りを無料配布。

写真の説明文を点字で表記し、カレンダーに同封している。

点字カレンダーには、月ごとに美しい写真を付ける事によって晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを促進する願いが込められている。

2020年のテーマは「日本の世界遺産」。

製作と配布は、社会福祉法人日本点字図書館と共同で実施。

(3) 手話スクールの開講と手話の普及事業

手話ができる人を一人でも多く増やし、聴覚障がい者への生活支援に貢献してもらおう。2018年度まで、1年生（入門編）、2年生（基礎編）の講座を開いてきたが、新たに、3年生（上級編）の講座を2019年度から開講する。

この目的について。

手話をさらに深め、地域で手話を生かした活動や、手話通訳者を本格的に目指したい人は、そのための講習会を受けなければならないが、その講習会を受けるためには、3年間の手話の学習経験が必要になる。今までは、2年間の授業を終えた生徒は、1年間別の講習会に通う必要があった。その人たちのために、3年生の講座を新たに開講することにした。

1年から3年の授業は、土曜日に、四ツ谷の弘済会館で年間27回開講する。8月の「24時間テレビ」には手話コーラス部がサライを手話コーラスで出演する他、聴覚障害者の来場に対応するために手話通訳士を会場に派遣する。2019年度の手話スクールは、

1年生（43期生）44名、2年生（42期生）37名、3年生（41期生）31名が参加する。

(4)ラジオから発信する視覚障害者支援の情報番組の放送

視覚障害者に対して、晴眼者がどのように接すれば良いのか。また日々の生活で、視覚障害者は、何を必要としているのか等の情報をラジオを通じて情報発信する。

視覚障害者と共により良い社会を目指すことを目的としている。

放送はアール・エフ・ラジオ日本。毎週日曜日午前7時5分から15分間の放送。

2014年4月に放送を開始以来、今年度で、6年目を迎える。

今年も視覚障がい者のためになるイベントや、そのイベントと連携した特別番組の編成も検討中である。また鉄道ホーム事故を食い止める交通安全キャンペーンに参加する。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

(1) 角膜移植・再生医療への助成

2010年度から開始した角膜移植・再生医療研究費への助成。

助成先：移植・再生医療を支える会

(2) 聴覚障害児の学校への助成

団体生活へのスムーズな順応を図ることを目的とした、耳の不自由な生徒約60人が参加する夏期郊外学習に対する助成。

助成先：学校法人 日本聾話学校

(3) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

目の不自由な人を援助する人材の指導・育成のためのDVDの教材の製作に助成。また、同じ目的で行う地方講演会にも助成。

助成先：社会福祉法人 日本盲人職能開発センター

(4) 「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

小冊子「盲人に接する人々のために」1万部の製作と配布に助成。

援助者が、盲人と一緒に歩く方法や危険物の扱い方などを学ぶ内容。

助成先：社会福祉法人 日本盲人職能開発センター

(5) 点字技能検定事業への助成

日本盲人社会福祉施設協議会が行う点字技能検定に助成。受験にかかる費用の一部等に使用される。この検定試験の目的は、点字関係職種の専門性と認知度を高め、点字の普及と点字の質の向上を図ることにある。合格者は厚生労働省より「点字技能師」として認められる。

助成先：社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

(6)視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成

全国の各種老人ホームの職員や在宅福祉に携わるヘルパー等を対象に、視覚障害者へのケア技術向上や、介護職員への指導者の養成を目的とした講習会への助成。講習会にかかる費用の一部に使用される。

助成先：特定非営利活動法人 全国盲老人福祉施設連絡協議会

(7)その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会に優勝・準優勝・最優秀投手賞楯を贈呈

助成先： 全東京ろう社会人軟式野球連盟

全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・視覚障害者のテニス大会に助成

助成先：日本ブラインドテニス連盟

- ・チャリティ映画会開催に助成

映画のチケット購入

助成先：社会福祉法人日本点字図書館、社会福祉法人日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成

記念品代

助成先：社会福祉法人日本点字図書館

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先：公益社団法人 東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る。

助成先：公益財団法人 日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート 2019 (公財)日本室内楽振興財団と共催

第9回大阪国際室内楽コンクール・フェスタ部門(2名から6名のアンサンブル)。従来のクラシック音楽だけでなく、世界各地のあらゆる伝統音楽・伝統音楽・民族音楽を含め、いかなる楽器の組み合わせでも参加可能。年齢、国籍を問わない)優勝者、ロシアのデュオ「プロコピエフ・ダフチャン」を招聘する。

公演を通じて室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝えるコンサート。

また、毎年、視覚障害者の方を約60名招待している。

全国公演のうち、東京公演を担当している。

開催日： 2019年11月17日(日) 会場：トッパンホール

(2) 想いで詩コンサート 2019 主催

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本の名曲を中心に選曲、構成する。

会場と一体となって、音楽の楽しさ、素晴らしさ、名曲の「詩」のもつ素晴らしさ、日本の文化などを伝えていくコンサート。

FCT(福島中央テレビ)郡山少年少女合唱団が、毎年このコンサートで、プロの歌手と共演することも大きな特徴。2019年度は、新潟県佐渡島にて開催する。

開催日： 2019年10月26日(土) 予定。会場：新潟県佐渡島アミューズメント佐渡

(3) スクールコンサート 主催

次代を担う小中学生に、日本の名曲を中心に、様々な音楽の素晴らしさと楽しさ

を伝えるコンサート。名曲の歌詞を通じて日本語の素晴らしさを伝えるだけでなく、プロの演奏家や、歌手の生の演奏に触れる機会を創り、地元の小学生、中学生に、芸術への目を開かせ、生の音楽体験を通じて、豊かな感受性を育くむことに寄与する。

また、音楽は、アレンジにより様々な可能性が広がることも知ってもらおう。普段、プロの演奏家、歌手の生のコンサートに触れる機会が少ない地方を中心に開催する。全国の小・中学校、及び教育委員会、音楽ホールと協力して実施。今年、宮崎県小林市にて開催。

開催日： 2019年11月28日（木）。 会場：宮崎県小林文化会館

しょうみょう こうえん **(4) 聲明 公演 主催**

日本音楽の源流といわれ、単旋律音楽に大きな影響を与えた「聲明」と「洋楽器」が共演。「曼荼羅・音の饗宴」をテーマとし、荘厳な読経の響きと美しく幻想的な音楽で構成されたコンサート。

開催日： 2020年1月24日（金） 会場： 浜離宮朝日ホール

(5) 親子で楽しむ「つうコンサート」 主催

團伊玖磨が作曲したオペラ「夕鶴」のエッセンスで構成された、ユニークなコンサート。作品は民話「夕鶴」をもとにした物語。

人への思いやり、約束を守るということ、恩返しとは何か、など様々なことを語りかけてくるコンサート。

5回目となる2019年度は、島根県隠岐島で開催。

毎回、開催される地元の少年少女の合唱団が、プロの歌手と共演することもこのコンサートの大きな特徴である。

開催日：2019年8月18日（日） 会場；島根県隠岐島文化会館

(6)「言葉の寺子屋～中学生から大人までの俳句塾」は中止する。

中学生、高校生をメインの対象に、中学生から大人まで、俳句を通じて日本語というもの、日本独特の風習や文化というものを深く知ってもらうことを目的に、9年間開講してきた。

しかし、この数年間、中学生、高校生の申し込みがほとんどなく、本来の目的を達成することが難しくなってきたため、2019年度より中止する。

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1)第71回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に対する助成

英語力と弁論能力を高め、国際交流の担い手を育成することを目的とした上記大会への助成。2019年度は第71回目を迎える。

助成先： 日本学生協会基金